

実践例 県立佐野松桜高等学校

教科・科目等 LHR（3学年 27名）

本時の目標

自分たちのもつ権利を知り、互いを尊重し合う人間関係を構築しようとする態度を身に付ける。

育てたい資質・能力等

自他の境界を考え、互いを尊重することができる。（技能）

教材

- ・ワークシート（「ゲシュタルトの祈り」）
- ・R4人権の窓（子どもの権利）：子どもの権利として認められているものは？

展開

- これまでの人間関係を振り返り、それぞれの場面について考える。
 - ①自分が相手にしてほしかったこと
 - ②相手は自分にどうしてほしかったのか（予想）
 - ③トラブルになる前にどうすればよかったのか、どんなことができたか
- 精神科医パールズの詩「ゲシュタルトの祈り」を読み、「私は私、あなたはあなた」「でも、」の一文の意味について考え、5～6人のグループで共有する。
- 自分たちがもつ権利について、グループで相談しながら自分たちがもつ権利を考えて書き出す。
- 学習教材「人権の窓」（子どもの権利）を使って、自分たちがもつ権利について確認する。
- どのような行為が他者の権利を侵害するかを考える。
- 今後の人間関係において気を付けたいこと、できそうなことを書く。

子どもの権利として認められているものはどれでしょう？

次の1～5の中から子どもの権利として認められているものを選びましょう。

- 1 いじめ・体罰・虐待から守られるための権利があるので、困っていることを相談した。
- 2 遊ぶ権利があるので、校庭の道具を独占した。
- 3 健康的な生活を送る権利があるので、体調が悪いとき学校を休んだ。
- 4 自分の思ったことを表現する権利があるので、嫌いな人の悪口を言いふらした。
- 5 仲間をつくる権利があるので、苦手な人を入れずにグループをつくった。



学習教材「人権の窓」
（子どもの権利）

学習の様子

